



札幌部会(第20回)

日時:	2019年6月8日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、杉田(千葉県立津田沼高)、中山(京都府立園部高)、川瀬(札幌市立北翔養護)、鈴木(石狩翔陽高)、奈良(藤女子中高)、山下(札幌市立簾舞中)、兼間(札幌市立もみじ台中)、飯高(札幌市立柏丘中)、山崎(北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

- 野間先生(同志社大)より、夏の経済教室のプログラムの報告と以下の実践紹介が行われた。
 - 丹松先生(おおさか学びの会)の「社会科の本質に根ざした3年間の見直しを持つ」との記事から、川村先生(大阪市立咲くやこの花中)の卒業レポートの取組
 - 行壽先生(福井県美浜町立美浜中)「冬将軍をやっつけろ! ザ・雪かきゲーム!」の取組
- 山崎(北見北斗高)からPPTを用いて、夏の経済教室(東京高校)で発表する「新テストを視点として授業改善を考える」の内容紹介を行った。大きな発表の流れは、「①社会科の目標達成に向けて→②センターと新テストの比較から生徒は何を学ぼうとしているか→③4つの経済的な思考実験の授業紹介→④ルーブリック評価とカリマネの構造→⑤考察」となっている。加藤先生(慶応大)と新井先生(上智大非)による事前のメール指摘を参考に、30分程度という発表時間の制約の中、どの項目にどのくらい時間を配分したら良いかなど、時間をかけて検討を行った。この日の発表時間は28分30秒だったので、4つの授業案の濃淡を付けつつも全て資料として残し、難解な概念の説明をスライドに入れたり、ミニレポートの評価方法などの説明を加えたりするなど、微修正を施す方向性の意見が中心となった。その他、「新テストのために授業改善というのではなく、社会科の目標を達成するために新テストを使うという教育者としての信念、哲学に共感できる」という意見が寄せられた。
- 川瀬先生(北翔養護)より、「書籍・資料等の読解に関する指導について」の資料をもとに指導プランの試案の紹介が行われた。これは、D. アトキンソン『日本人の賞賛』(東洋経済新報社)の書籍をもとに、人口減少、高齢化などの課題を選択させ、事実と主張の区別に留意しながらトゥールミン方式のワークシートにまとめさせることを構想したものである。主な質疑応答は以下の通り。

Q1. 新テストでも読解力が求められており、高校ではどのように読書指導をしているのか?
→朝読書が一般的かと思う。遅刻が減り、朝の静寂からスタートするという利点がある。

Q2. トールミン・モデルの構造は、論者によって様々な異なる型があるが、この川瀬型の引用元は何か?
→ネットワークの初期のころ、札幌で行われた経済教育WSでの大杉先生の発表内容が出元。生徒の現状に合わせ、自分なりに改変している。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:次回は、10月5日(土)に開催。時間は14:30~17:00。場所は、Sapporo55ビル5階 キャリアバンクセミナールーム。